

沿革

曹洞宗長野県第一青年会は、昭和44年に初代会長新津大隆老師を中心に発足した。平成21年に創立40周年を迎えた長い歴史のある会である。「歳末助け合い托鉢」などの活動は発足当時から今も続いている。当初は長野市から上田市まで約40kmの道のりを、途中屋代の満照寺様で1泊し、2日間かけて托鉢していたそうだ。昭

和46年には、当時宗務所庶務主事をお勤めになられていた南澤道人老師(現大本山永平寺副貫首老師)もこの托鉢に参加され、同じ道のりを会員と共に歩かれたという。最終目的地だった上田市月窓寺様に到着された時、副貫首老師は足の豆が潰れていたというお話をお聞きした。

また、20周年を迎えた頃に、現在も製作が続いている禅Tシャツが初めて作られた。(橋崎一光老師に御染筆頂いた「禅」の文字を背中

にプリントしたものの。)このTシャツの売り上げは、当時雲仙普賢岳の被災地の皆さんに合計100万円円寄付されている。以後Tシャツ販売を継続し、その売上金から多方面の施設に車イスなどの寄付を行っている。そして、平成5年頃より今日に至る5つの委員会による活動の形(基礎)が作られた。

更に平成11年3月には創立30周年の記念講演会が開催され、発心寺専門僧堂長原田雪溪老師を拜請し「二大事因縁について」と題し



曹洞宗 長野県第一 青年会

設立	昭和44年発足
会長	山口泰祐
副会長	小宮山義光・斎藤智是 小林亮宏・萩原広道 秋山時慶・丸山祥存
参与	伊東盛弥
事務局長	水澤光正・正木良道
執行部	佐藤賢龍・山口文元
委員長	小野崇之(ボランティア) 秋山和範(法式) 木村法幸(布教) 山崎造成(坐禅) 田村朋順(各種研修・人権)
支部長	12名(各教区より)
会員数	106名(平成23年1月1日)

現在の活動

ここでは主に5つの委員会での活動内容を取り上げる。

1 ボランティア委員会

毎年、前述の禅Tシャツを製作販売し、その売上金より各方面の施設、災害などが起これば、その被災地に寄付を行っている。その他、バザーなどにも取り組みお寺や福

2 法式研究委員会

本年度は、松代の長国寺専門僧堂を会場に三村契一堂長老師を拜請し、三仏忌の研修を行った。その折、三村老師より疏の作り方やその意味などについて講義を拝聴した。

3 布教研究委員会

初めての試みだったが、昨年から会員2名に各々のテーマで法話を

4 坐禅研究委員会

毎年2月に一日摂心会を企画している。全国的にも珍しいと思うが、臨済宗建長寺派管長吉田正道老師を拜請し、坐禅の後に建長寺御開山蘭溪道隆禪師の「坐禅論」の提唱が行われている。老師をお招きし、今年ですでに5回目の接心となる。

社施設を会場に実施している。依頼し、拝聴する法話研修会を行った。拝聴後、その法話の内容や布教の在り方について会員同士が忌憚無く意見交換をした。

た講演を頂いた。

そして現在、年間の活動として緑蔭禅の集い、禅文化講座、長野県梅花大会、歳末助け合い托鉢などの随喜の他、前述の5つの委員会(ボランティア、法式、布教、坐禅、各種研修・人権)活動を中心に活発に運営されている。その他にボランティア活動にも積極的に取り組んできた。平成16年新潟県中越沖地震の時には、すぐに被災地に赴き、炊き出し等の支援活動を行った。

今後地域社会、及び会員同士の連携を深め更により良い会に発展できればと考えています。



第47回緑蔭禅の集い(臥竜山興国寺)